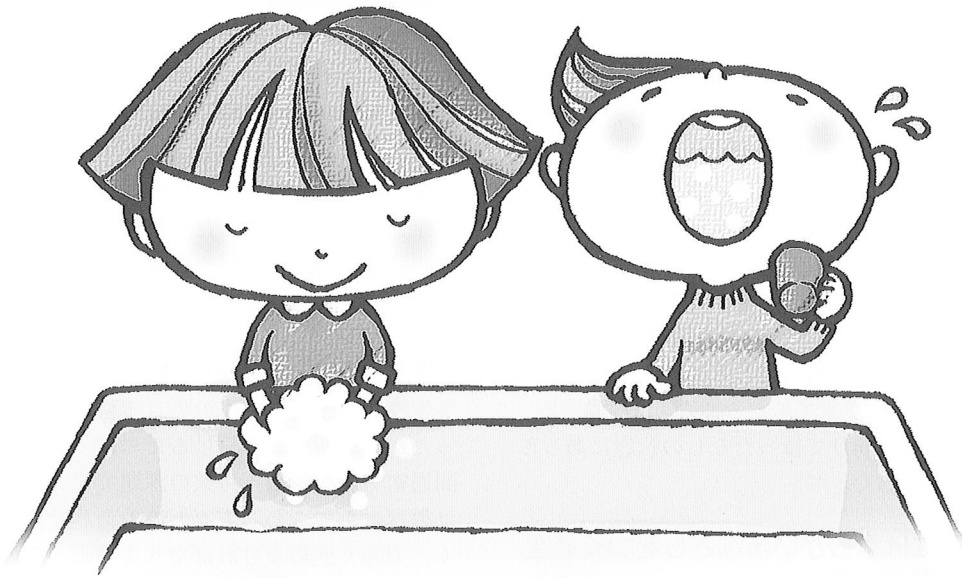


道 教 組

DOKYOSO NEWS vol.529



「力あわせを 広く 強く」(川村執行委員長の新年あいさつ)

割振り変更業務拡大する～定員・教育予算交渉～

飛び出せ道外! 沖縄編

ゆきとどいた教育への対話を重ね…教育全国署名北海道集約集会

“ぼっち”じゃない……ひとり分会から……その⑤

わたしのとっておき

力あわせを 広く 強く

全北海道教職員組合 執行委員長 川村 安浩

新年明けましておめでとうございます。
道内の教職員のみなさま、日ごろのご努力に対し深く敬意を表したいと思います。

「学校に救急車が駆けつけている」

教職員の長時間過密労働の実態について、大きな関心が寄せられています。昨年、名古屋大学の内田良準教授の講演を聞く機会がありました。その中で「少し前までは、戦車に乗って学校に押し寄せていた人たちが、今は救急車に乗って駆けつけてくれている」とお話しされていました。近年、学校や教職員が厳しい目で見られ、風当たりが強い状況が続いていました。それが、部活動問題をはじめ教職員の働き方の実態が広く知られるようになり「先生方、大丈夫？何とかしてあげようよ」という声が大きくなってきているのです。

内田准教授は更に続けて、「救急車で駆けつけてくれている今、学校が変わらなければ救急車は帰ってしまい、もう来てくれなくなりますよ」と、勤務実態改善に向けて待たなしの状態にあることを指摘しました。

教職員には柔らかいまなざしをつくる空間と時間が必要

学習指導要領が改訂され、この4月から移行措置が始まります。道徳が教科化され、外国語の授業時間が増やされます。授業準備に一層の時間と手間をかけなければならなくなるのは明らかです。教職員の多忙化に一層の拍車がかかります。



「子どものため」と無理を通そうとするも、もう限界です。「子どもたちと先生が学びを紡ぎ合う」には柔らかく丁寧なまなざしをつくる空間と時間が必要です。限界を超えた多忙化は、学び舎を殺伐にします。

先般、私たちは道高教組と共に、教職員の働き方についてのアンケート調査を実施しました。教職員の長時間過密勤務の問題を、仕事の中身からとらえようと試みたものです。「させられている仕事と学校や教員が本来担うべき役割とのズレ」が浮きぼりになりました。教職員の長時間過密労働問題は、一方で「学校や教員が担っているもの」の問い直しを迫っているのです。

働き方改善めざし、広く手をたずさえる

学校が、子どもたちの生きる喜びにつながるあったかい場所であり続けるために、教職員の長時間過密労働改善は不可欠の課題です。そのためには教育にたずさわる方々との力あわせを広く大きく、力強く進めなければなりません。この間、道教委・道小中校長会・道経済団体などとも、教職員の働き方改善めざし懇談を重ねています。

全北海道教職員組合は、組合員の皆さん・道内のすべての教職員の皆さんと手をたずさえ、全力をつくすことを決意して、新年の挨拶といたします。

お知らせ 第41回紀元節復活反対2.11道民集会

2月11日の「建国記念の日」は、侵略戦争を美化する皇国史観を想起させる最も象徴的な日として位置づけられてきました。

日時：2月11日（日）13：30～15：20

場所：ホテルライフォート札幌 2階

講演：「憲法の未来」 木村草太さん（首都大）

割振り変更業務拡大する ～定員・教育予算交渉～

1月24日、8時30分から道庁別館で賃金継続・定員教育予算最終交渉を行い、全道から道教組・高教組の組合員27名が交渉に臨みました。道教委柴田教育長が回答した主な回答は以下の内容です。

- 1) 人間ドッグの再検査・精密検査について
 - ・職務専念義務免除とする方向で検討する。
- 2) 臨時教員の確保について
 - ・潜在的な教員免許取得者にも道や市町村の広報で募集したい。
 - ・期限付き教員等を対象とした採用選考の導入を検討してまいりたい。
- 3) 割振り変更業務は拡大する
 - ・PTAの会議における保護者や地域住民等に対する説明を行う業務、道立学校の入学者選抜業務を加える。
 - ・14日前までとしている割振り結果の通知期間を原則7日前までとする。
 - ・更に業務の日程が直前に決まった場合など、特別な事情がある場合は、前日までとする。
例→急な家庭訪問



- 4) 超勤・多忙化の解消について
 - ・学校閉庁日に向けて検討している。
 - ・勤務時間の客観的把握について検討している。
 - ・部活動休養日の完全実施など、実効ある取組が進むよう努力する。
 - ・高校、小、中、特別支援の教員の方々からもご意見を伺っているところ。
 - ・具体的な施策を盛り込んだアクションプランを年度内に作成し、時間外勤務の一層の縮減に庁内一丸となって取り組んでいく。

道教委は急いで改善を！

交渉にあたり、次の項目の改善を強く求めました。

- 不妊治療休暇の新設を。当面、高度へき地からの治療通院には、移動日を「職専免」にすること。
- 看護休暇の内容を拡充し、家族休暇（子どもの授業参観、入・卒業式などへの拡大）を設定すること。
- 人間ドッグの再検査・精密検査は、「職専免」「病休」として扱うこと。
- ストレスチェック制度は職場環境改善につながるように指導すること。
- 人事評価制度では、「士気向上」「活性化」は達成できない。人事評価制度における評価結果の開示を確実にし、苦情相談できることを文書などで明示すること。
- 学校現場では、代替臨時教員が見つからず、教

育活動に穴が開くことが常態化している。欠員の早期解消及び欠員が生じないとりくみをする

- こと。
- 勤務時間外に設定されるPTA活動、部活動、講習など、学校管理下で行われるすべての業務を「割振り変更」の対象にすること。また、長期休業中に「割振り変更」できるようにすること。
- 客観的な方法を用いて勤務時間の実情を把握すること。また、超勤解消の見通しを示すこと。
- 「学校閉庁日」の導入を進めること。その際、「年休」、「夏季休暇」、振替え「特例」の取得を強制しないこと。
- 「事務処理（調査への回答）」の業務で忙しさを感じている主幹教諭・教諭が多い。「調査事務の削減」を緊急に取り組むこと。
- 部活動休養日（土日を含む2日間）の完全実施に向け、強制力を持って、設定・調査・指導を行うこと。

怒り!! 来年度から退職手当約80万円削減 ……賃金継続交渉

交渉前、怒りのこもったレッドカードを道教委に渡しました。12月からの交渉の結果、約80万円の退職手当削減は、来年度に押し返したが、削減自体は国の圧力の結果、強行されました。5年前の約410万円の退職手当削減に続き、5年ごとの退職手当見直しは、残業代もなく働いた教職員の定年後の生活を脅かすことになり、許されません。



道教委交渉（1月12日）での梶木さん（千歳市立信濃小）の発言を紹介します

午前0時には寝るようにしている



組合専従から昨年4月に現場復帰した梶木といいます。

子どもが登校するまでの30分は慌ただしいです。校務パソコンを立ち上げ、学級通信・ワークシート、校務分掌関係書類を印刷。採点、授業の準備をして教室へ行きます。教室の

ICT機器の電源を入れ、宿題やプリント類を子どもの机の上に配布し、子どもへの指示を板書。タオルを濡らして加湿。

休み時間は、「トイレに行くんだよ～」の声かけ、プリントの○つけ、「連絡帳」への返事等々。子どもが帰った15時頃。学年・分掌の打合せ、共同作業。それから学級に関わる仕事。あっという間に勤務終了時刻（16時25分）。休憩時間なんかどこにもありません。

私の退勤時刻は、早くも18時半。20時になることもしばしば。PTAの会議、地域の方との生徒指導関連の集まり、児童館との懇談……。やっと家についての夕食・入浴。それから、学級通信、

必要最低限のプリントづくり、教材研究をささっとやって、0時には寝るようにしています。

改善してほしいことが3つある

改善してほしいことが3つあります。

第1が、道教委発の「いじめアンケート」の軽減です。アンケートで1つでも「嫌な思いをした」に○があれば、子どもと面談し内容を報告しなければなりません。「いじめと認定しない」でも判断に至った経緯を記載。学校としてまとめたうえで市教委へ報告。これが道と市、合計4回ですよ。

第2は、子どもたちの安心・安全を学校だけの責任に押しつけないでほしいということです。学習指導要領の改訂に伴い、英語の研修、道徳の授業研究などでぎゅうぎゅう。新年度から授業時数が増えます。子どもたちの教育条件が悪くなっているのです。

第3は、教職員の働き方に関わり「教職員の意識改革」を強く促すべきだということです。私たちは「子どものために、24時間営業の教師であることで良い実践ができる」と思われてきました。道教委は、「非常事態宣言、このままじゃ危ない！先生方の働き方は命を削っている！考え直そう、自分の働き方を！！」と呼びかけてほしいのです。

道教委の皆さんには、多くの学校職場に足を運び、実態をつぶさに見て、現場で働く教職員から聴き取る実践を積み重ねてほしいと思います。

道教委交渉（1月24日）での前田さん（登別明日中等教育学校）の発言を紹介します

12日間ぶっ通しの勤務も

中学校の部活動は、平日で夏場18:30、冬場

18:00まで行っています。土日も練習日にあてていることが多く、顧問一人体制では非常に厳しく複数体制にするために、複数部活の掛け持ちも少

なくないのです。

中体連大会は土日に行われるため、大会が重なる時期は、12日間休日なしになります。振替で休みを取ることができても、利用する先生はほぼいない状態です。運動部の顧問をしているある先生は「我が子の運動会に参加することもできない」とぼやきます。



「私、仕事遅いから……」

学級担任は、少ない空き時間の中で、生徒の生活ノートへの記述。給食指導、突発的に起こる生徒指導対応、放課後は委員会活動、部活動。休憩と感じる時間はありません。部活が終わると、欠席生徒や保護者へ連絡。明日への授業準備に取り

かかるのは毎日19：00以降になってしまいます。積み残した仕事は、土日も活用しなければ追いついていかないのです。それでも遅れが出ることもあり、「私、仕事が遅いから……」と自分を責める若い先生もいます。

授業準備の時間がほしい

子どもたちがつまらなそうに授業を受ける姿を目にすると、心が苦しいです。時間をかけて練った授業は、子どもたちに伝わり、生きいきと活動します。長年、授業を行ってきたからこそわかる実感です。

毎日の授業準備に充分の時間を割くことができないのが現状です。努力不足と片付けられるのではなく、物理的に無理なのです。

真剣に子どもに関わり教育を考えている教員が、時間をかけて授業準備ができる環境を強く望んでいます。そして、その頑張りが認められていることを実感できる・励みになる給与を保障してください。

飛び出せ道外！ 沖縄編

飛び出しました「～沖縄で平和を学ぼう～」

山本 民 (宗谷教組)

6年ぶりの「飛び出せ！道外！」では、沖縄で平和について考える旅となりました。広く道教組のみなさんにも呼びかけ、宗谷・網走・釧路から総勢6人で行ってきました。

見学地の1つ、キャンプシュワブのゲート前



では、埋め立て用の土砂の搬入に反対して抗議行動が行われていました。機動隊員やトラック運転手に、「今の仕事は辺野古の未来を台

無しにするとわかっていますか」とおばあが訴えていました。

楽しみもなくて「は！」ということで、美ら海水族館と古宇里(こうり)島に行きました。

2.5kmほどの橋を渡る時には日差しが差し込み、晴れた空に真っ青な海！オーシャンビューのレストランで飲む1杯は、サイコーでした。

私たちは、沖縄の現状に学び、子どもたちの未来のためにできることをしなければと強く思いました。その第1歩は学ぶ。誰かにおまかせするのではなく、教え子や子ども・家族が笑顔で過ごす未来のためにできることは何か、しっかり考えなくてはと思いました。



ゆきとどいた教育への対話を重ね

～教育全国署名北海道集約集会～

12月16日、札幌で「教育全国署名」北海道集約集会が開催され、全道各地・各団体から41名が参加しました。全道で、48,296筆の署名が集約されています。（1月20日現在）



連絡会の新保事務局長（道教組書記長）が、今年度のとりくみ経過、教育をめぐる状況、署名活動の到達、紹介議員のとりくみ等を報告しました。4年間かけて179自治体を回り、首長や教育長と懇談できたことは、全国的に見ても画期的な到達だと強調し、懇談では異口同音に「財政難の中でも子育て支援・教育条件整備をすすめている」と

語っていたと、「ゆきとどいた教育」を実現することでの対話と共感がすすんでいると報告をまとめました。

道教組から、中村賢明さん（上川教組）が、旭川・上川の取り組みについて「旭川では、高教組・新婦人・旭労連・道退教上川支部が集まり、スタート集会を行いました。道退教の方が署名行動の



準備などをしてくれるので助かっています。旭川、士別、美深の教育委員会を訪問し、『働き方改善アンケートのまとめ』などを渡して懇談することができました」と、発言しました。

北海道子どもセンター総会 ～電話相談・教職員SOS・教育研究～

12月10日、「2018年度北海道子どもセンター総会」が開かれました。子育て教育電話相談から見える子ども・若者とかかわる大人の状況について報告され、今後の主な取り組みとして①電話相談活動の周知の取り組み②教職員の困り感にこたえる「教職員SOS」の取り組み③教育研究部を設けて、授業づくり・学校づくりを励ます取り組みを進めていくことが提案され、承認されました。

討論・交流では、「朝5時起きで出勤」「19：00まで部活」「夜中に目が覚める」「保護者が自ら学んだことをそのまま学校に求め、教師へのクレームとしてあらわれることがある」「自閉症スペクトラムとも思える同僚との関わりが難しい」など教職員と学校の様子が語られました。間宮運営委員長が「精神的に病んで休職中の若い先生と面談を重ね、現場復帰直前まで来てる」「不眠が続いているときに更にダメージを受けることが重なる

と深刻になることが多い」と話しました。

また、SNSにかかわり「文字に残るのでトラブルのもとになる」「学級世論（行事の役割分担等々）がLINEで形成されていた」「貧困はSNS格差をつくる。ひきこもりの若者のSNS率は10%しかない」などの話もだされました。

「不登校の子どもの25%が貧困家庭」「親が仕事を終えるや飲酒」「長期休業中は、食べさせられないので養護施設に3人の子どもをあずけている」「学校ではちゃんとしてなきゃいけないから……」と境相談員。谷運営委員は、「保護者がらみのトラブルに、学校の指導は『友だちを解散すれ』と。あまりに子どもへのリスクがない」「（子どもの貧困など）家庭で困り感いっぱいの子に『学校に行くとホッとできる』と感じてもらえるようにすることが、学校づくりの本筋でないか」と話しました。

“ぼっち”じゃない！……ひとり分会から…… その⑤

七飯町大沼小学校鈴蘭谷分校分会

阿部 伸郎（教諭）

“ぼっち”を感じたことはないなあ～

教員となって23年目、サッカー少年団指導者となって23年目、道教組組合員となって22年8か月目になりました。出身は東北秋田、振り出しはオホーツク、現在の勤め先と出身大学の所在地は渡島、様々な経験を重ねることができ現在に至っています。実感としては「人に恵まれた」「周りの人たちに助けてもらった」という感謝しかありません。そこから自分なりに創意工夫をする元気をもらい、何とか今日までやってこられました。だから、私は「ぼっち」を感じたことはないなあ～、なのです。（“ぼっち”の意味は高1の娘から教えてもらいました。）



気軽に組合のお誘いをし、魅力を伝えたい

道教組に加入して、ひとり分会は19年です。新卒から10年はひとり分会でした。まったく何もわからず、何もできず悩んでいた新卒4年間のオホーツク時代。組合員の先生方から算数の授業、学級経営について多くを学びました。書記次長なんて肩書きをいただいて、教育局に行ったのも良い思い出です。

“組合加入＝仲間がいて助けてくれる”

渡島に異動してきてからの6年間。学級崩壊を目の当たりにし、自分の力の無さに落ち込み、「ちゃんとしなければ」と職場の中でなかなか本音を出せず、途方に暮れていました。

大好きな方に「目の前の子どもから出発することが大切」「この本読んでみたら」「まずは飲みに来い」とあたたかい言葉をいただき、時には泊まりがけで語り、ストレスも発散し、元気を回復しました。自分から積極的に学習会に行ったり先輩の話を聞いたり、会議に参加したりすることが自分の力量アップやストレス解消になります。

「何もなくても、入っていれば組合が何かしてくれる」ではなく、「自分から関わり、しゃべり、求めると、そこにはヒントやアドバイスがあり、自分の力量アップにつながる」のです。お陰で、なんとか教員を続けることができています。

身近に感じることは少なくとも、頼りになる仲間がいます。自分から行動すれば必ず力がつきます。ともにあゆんでいきましょう！



編集後記

1月に「ユダヤ人を救った動物園」「否定と肯定」の映画を観てきました。動物園の地下室にユダヤ人をかくまい、命がけで救ったドイツ夫婦、ユダヤ人約600万人を抹殺したホロコーストはなかったと歴史を否定する裁判をイギリスで起こした学者と反論したユダヤ人学者の闘い。2本とも観ごたえがありました。ホロコーストを「否定」す

る裁判を起こすこと自体、ヨーロッパでは信じがたいもので、注目を浴びたそうです。日本にも、「先の大戦は侵略戦争ではなかった」「従軍慰安婦はいなかった」と歴史を「否定」する政治家がまだいるのです。私たちは歴史の真実を「否定」する政治家の企みを暴かなければなりません。この映画、みなさんにもおすすめします。（新保）

わたしのとっておき

“とっておき”の写真・絵・短歌・川柳など紙面で紹介できる作品募集。頁下メールアドレスへご連絡を。



「すごいぞ『ガイナックス福島』」

家族旅行で寄った三春町にある「福島さくら遊学舎」。震災の影響で廃校になった校舎を活用し、アニメを通して復興に寄与しているそう。感動すると同時に、忘れてはいけない、誰かに伝えたいと強く思いました。

【押見 清一(江差町立南が丘小学校)】



「親バカ生活」

1歳7か月の息子。笑顔で迎えてくれる息子。メガホンを手にファイターズやレバンガ北海道を応援する息子。一番のおもちゃがティッシュペーパーの息子。目に入れても痛くない息子。でも、電化製品を壊して、出費がかさむのは、痛いなあ…。

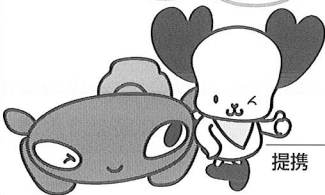
【佐藤 亮樹(江差町立南が丘小学校)】

全教自動車保険

「見積依頼」でハーゲンダッツをプレゼント!

冬道は、①余裕を持って出発

- ②目的地までの天候・道路状況を報道などで確認
 - ③悪化したら、公共交通機関の利用かとり止め
 - ④出勤時刻が迫っていても、天候の回復を待つ。
- 万が一の時は、全教自動車保険が頼りになります。
是非、ご加入を。



提携 東京海上日動火災
保険株式会社

全教自動車保険加入にあたっての5つの特長

- ①無事故割引を他の保険会社や一部の共済から引き継げます
- ②保険料は給料引去または口座振替
- ③ご家族の車でも、何台でも加入OK
- ④退職者もメリット引き継ぎで安心
- ⑤申し込んだその日から安心

手続き

カンタン

有限会社 川上企画 (道教組指定代理店)

札幌市中央区南大通西12丁目4-78 ウェスト12 1階
フリーダイヤル 0120-215-789 FAX 011-218-2472

道教組

2018年2月1日発行

発行 全北海道教職員組合 発行者 川村安浩 〒060-0909札幌市東区北9条東1丁目 北海道労働センター 3階

TEL(011)742-0101 FAX(011)742-1001 メールアドレス dokyoso@seagreen.ocn.ne.jp ホームページ <http://www.dokyoso.net>